

福井県優良図書

令和6年6月分

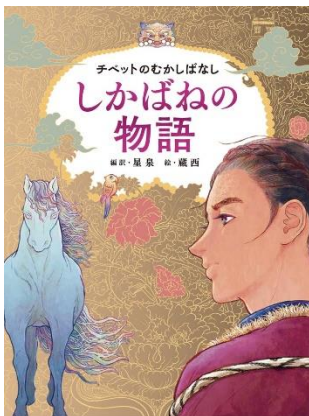
○ロッタの夢 オルコット一家に出会った少女
ノーマ・ジョンストン // 作 谷口由美子 // 訳
平澤朋子 // 絵 【小学校高学年～】



岩波書店 ¥968 (税込み)

19世紀半ばを舞台にドイツから移民としてアメリカにやってきた少女ロッタが、オルコット一家に出会うことで新しい生活のスタートを切るというドラマチックな物語です。ロッタが暮らしていた環境は、非常に厳しくつらいことの多い日々が描かれています。しかし、その中で必死に学ぼうとする姿や、いつも家族のことを考え大切にすることに、言葉では言い表せないほどの感銘をうけることでしょう。様々な年代の方に読んでほしい1冊です。

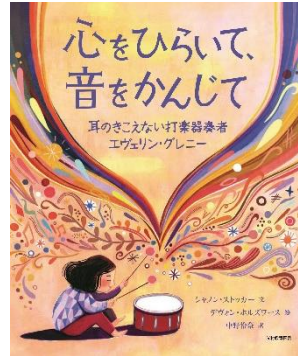
○チベットのむかしばなし しかばねの物語
星泉 // 編訳 蔵西 // 絵
【小学校高学年～】



のら書店 ¥1,760 (税込み)

主人公の青年は、幸福をもたらすしかばねを竜樹大師の元へ届ける任務を負っています。しかばねに話しかけてはいけないと命じられていますが、しかばねはとてもおしゃべりで、話はいつも面白いのです。任務の途中に出会う人物の行動に感動しながら、青年が成長していく様子を描いた物語です。
古くからチベットで広く読まれた「しかばねの物語」を和訳した図書ですが、チベット文化の専門家により、詳細に興味深く作品が作られていて、引き込まれてしまう図書です。

○心をひらいて、音をかんじて 耳のきこえない打楽器奏者
奏者エヴェリン・グレニー
シャノン・ストッカー // 文 デヴォン・ホルズワース // 絵
中野怜奈 // 訳 【小学校高学年～】



光村教育図書 ¥1,760 (税込み)

聴覚に障害を持ったエヴェリン・グレニーの生き方を、同じく難病をわずらう作者が描いた念いがあふれる絵本です。打楽器との出会いと、ロン・フォーブス先生の言葉で、どんどん彼女の可能性は広がっていきます。「だれにもたくさんの可能性があり、どんな時でもどこかに道は見つかります」という作者の言葉に大きな勇気をもたらえます。自分の心の声を聴き、自分を信じることで、自分を大事に、自分にむきあうことへの力をもらえる作品です。

○そして、あの日 エンリコのスケッチブック
リンデルト・クロムハウト // 作 アンネマリー・ファン・
ハーリンゲン // 絵 野坂悦子 // 訳 【小学校高学年～】



岩崎書店 ¥1,540 (税込み)

イタリアの架空の村を舞台にした物語で、前半は村の日常風景、後半は大地震が起きた後の一変した生活状況を描いています。エンリコの視点を通して、市井の人々の考え方や価値観を浮かび上がらせる手法は秀逸で、読んでいて大きな学びにつながるかと思います。日本においても、地震などの自然災害は他人ごとではなく、大災害の前と後の暮らしを描くという事で、同世代の子ども達にとってはとても意義ある作品であるといえます。

○一年一組せんせいあのね
 こどものつづやきセレクション
 鹿島和夫 // 選 ヨシタケシンスケ // 絵
 【小学校低学年～】



理論社 ¥1,650 (税込み)

子どもたちの素朴な疑問や気づきがふんだんに盛り込まれ、次はどんな作品なのか、と一気に読みてしまいました。特に、家族や先生ら身近な人への観察眼が鋭く、大人にとって我が身を振り返るきっかけにもなるでしょう。神戸市の先生だった選者が、当時受け持っていた1年生と交換日記をしていた中からセレクションした1冊とのことです。絵も解像度抜群で、文と合わせて観賞すると、場面場面の様子、空気感が伝わってきて味わい深いものがあります。

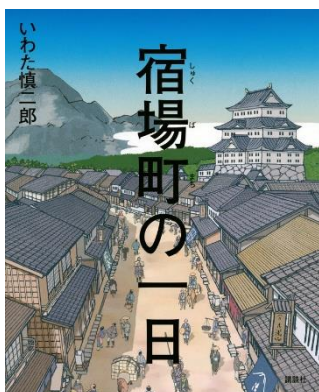
○ぼくは本のお医者さん
 深山さくら // 文
 【小学校低学年～】



佼成出版社 ¥1,540 (税込み)

本の修理をする”ブックドクター”としてこれまで5千冊以上の本を直してきている齋藤さんという方の歩みが描かれています。本の部位の名称や、製本の過程など図解もあつたり、分かりやすく説明してあります。新たな絵本との出会いから、自らその技術を習得していく過程のほか、持ち主の思いに寄り添う気持ちも丁寧に描かれています。本を大切に扱う気持ち、物を大切にすることも教えてくれる一冊です。

○宿場町の日
 いわた慎二郎 // 作・絵
 【小学校低学年～】



講談社 ¥1,650 (税込み)

最近、偉人を題材にしたテレビ番組が放送されており、歴史で大きく時代が変わると、ものの値段や暮らしぶりが異なることが、より身近に解ります。この「宿場町の日」はその子供バージョンのように読めます。遠い昔の江戸の暮しがより身近に感じられます。わかりやすい絵と解説が秀逸です。

○ぼくらはたけ
 マーガレット・ワイズ・ブラウン // 作
 イーディス・サッチャー・ハード // 作
 ガートルード・エリオット // 絵 木坂涼 // 訳 【幼児～】



好学社 ¥1,650 (税込み)

雪が溶けて春になったら畑を耕します。ハツカダイコンなどの種をまき、トマトの苗や、芽のでたジャガイモを植えていきます。お日さまや雨や風、虫たちや鳥や動物たち、四季とともに野菜たちが育っていきます。人が手を加え見守り収穫を迎えます。この絵本は70年以上前に生まれましたが、どこかなつかしいだけでなく、畑や土にふれたくなるような気持ちにさせてくれます。子どもたちが素直に四季の畑ごとや収穫の喜びを疑似体験できると思います。

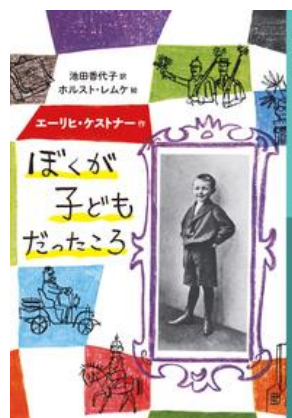
○ニワシドリのひみつをもとめて
 ものづくりする鳥のふしぎをさぐる旅
 鈴木まもる // 著
 【小学校中学年～】



理論社 ¥1,650 (税込み)

子どもの頃、図書館で出会った「ものづくりする鳥」の写真を見て、「なんでこんなものをつくるんだろう？」その時抱えた謎です。少年は大人になり絵本作家となり「ニワシドリ」が作る「アズマヤ」を解明して、絵本にまとめようと思ひ立ち、秘境へ旅立ちます。自然あふれる土地土地で取材を進めるうち「アズマヤ」への考察は深まっていきます。イラストたっぷりのハラハラドキドキの読んだら旅に出たくなる冒険記です。

○ぼくが子どもだったころ
 エーリヒ・ケストナー // 作
 ホルスト・レムケ // 絵 池田香代子 // 訳
 【中学生～】



岩波書店 ¥968 (税込み)

貧しい家に生まれたひとり息子は両親の愛情を受けて育ち、働きづめの母を懸命に支えます。好きな体操や学びのこと、クリスマスの話に徒歩旅行、たくさんのエピソードでエーリヒ・ケストナーの人となりが分かる本です。言い回しなど文章はおもしろいと言えます。「おっと、本筋からはずれるところだった」が、この本の決まり文句だと気づいた時には、数えていけばよかったと思ったぐらい、脱線するのが好きな作者のようです。